

令和8年度 高森町第7次振興総合計画
有識者による評価会議

【会議の目的】

本会議は、町が実施した事務事業の評価結果を、改めて多様な分野の有識者の皆様から評価していただく場です。

行政のみの視点にとどまらない、多角的な評価やご意見を取り入れることで、よりよいまちづくりにつなげていきたいと考えています。

令和8年7月29日（水）

高森町第7次振興総合計画改訂版について

第7次振興総合計画は令和2年度から11年度までの10年間、高森町の目指す姿を示した計画です。令和6年度末に前期5年間で振り返った改訂を行い、現在、後期計画（令和7年度～11年度）がスタートしています。

▼ 1. 将来像

＼なりたい「あなた」に会えるまち／
日本一のしあわせタウン高森



町が目指す将来像は、「なりたい『あなた』に会えるまち ～日本一のしあわせタウン高森～」です。

高森町は多くの住民が「住みやすい」と感じる町です。さらに一歩進み、住民自身が主体的に夢を持ち、自己実現ができること（ありたい姿が実現できること）が、真の「しあわせ」に繋がると考えます。

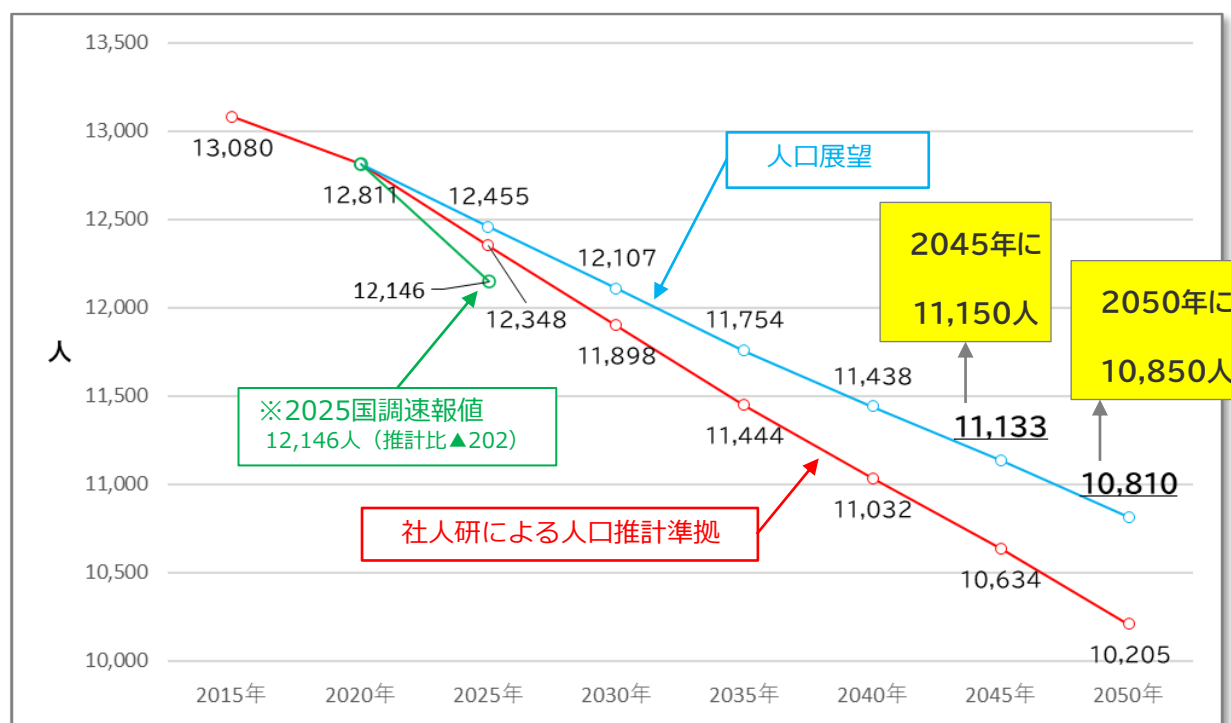
多様な価値観が互いに認められ、応援し合える持続可能な地域。後期期間においてもこの理念を軸に置き、新たな環境変化を柔軟に取り入れたまちづくりを進めます。

▼ 2. 将来の人口目標

2050年：10,850人

2020年（令和2年）国勢調査結果に基づく人口推計をベースに、前期期間の人口増減の実績を踏まえ、将来像 なりたい「あなた」に会えるまち～日本一のしあわせタウン高森～を実現するための将来人口目標を設定しました。

自然動態、社会動態を勘案し、2045年（令和27年）に11,150人、2050年（令和32年）に10,850人を目指します。

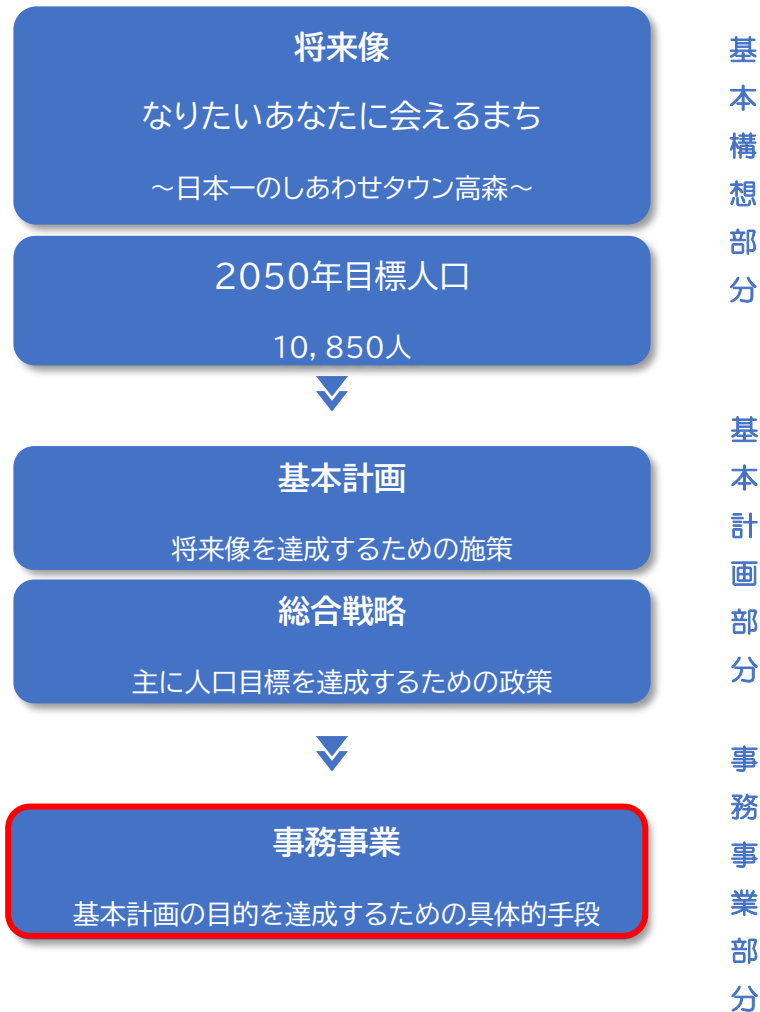


赤いグラフは社人研（国立社会保障・人口問題研究所）による、今後の高森町の人口推移の予測です。青いグラフは、様々な取り組みを行うことで、人口減少を抑制することを示しています。

※緑のグラフは2025年（令和7年）国勢調査の速報値です。社人研の推計よりも更に人口減少が進んだ結果となりました。

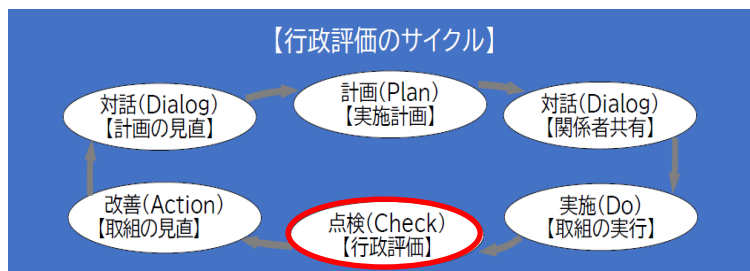
▼3. 将来像実現のための体系

将来像の実現と目標人口の達成のため、総合計画の基本計画と地方版総合戦略の政策に基づいて、具体的手段となる**事務事業**を推進します。



▼4. 計画の進管理

高森町では行政評価の手法（計画・実施・点検・改善と対話による関係者共有）により、取り組みの成果や課題を振り返り、改善を行いながら以降の取り組みに反映させます。



▼5. 基本計画（改訂版）

基本構想に掲げる将来像と人口目標を達成するため、各分野における目標と方針を定めたものが基本計画です。

改訂版基本計画は、**10分野21施策**で構成されています。

分野	施策 No.	施策名	目的(対象・意図)
A 主体的な学び の実現	1	「みんなキラキラ」子どもは町の主人公	○保育園児 屋外での遊びや運動を中心に様々な体験を深め、自然とふれあう中で、意欲、自立心、感性など根っこ力を育む ○小学生 「将来の夢を描く」ための基本的能力を獲得するとともに、主体性や問題解決力を身につけるようにする ○中学生 探究的な学びを通じ、自己課題を設定し、主体的に判断・解決する力を育み、「将来の夢」が描けるようにする
	2	「知って楽しい」生きるって学ぶこと	○町民 学びを通じて、豊かで充実した人生を送る ○町民 地域とかわり、地域の原動力や活力となる人材となる
B 子育てしやすい 環境の実現	1	「こどもはたから」みんなで育てる地域のこ	○こども 社会性を持ち、たくましく育つことができる ○保護者 責任感を持って子育てをする

※ 中 略

		で安心して暮らせるまち	て、町内の又通交主や防犯に対する意識と同等の、持続可能な体制維持・組織運営を実現している ○町 地域の協力を得て交通安全及び防犯に寄与する施設を整備・維持管理する
J 自立する行財政 の実現	1	「あなたに届く あなたから届く」情報発信	○町民 いつでも町へ想いを届けることができる ○町民 必要な町の情報を知ることができる
	2	「充実した暮らしのために」健全で安定した財政運営	○町の財政 計画的・効率的に運営される ○町有財産 計画的に維持管理され、更新される
	3	「町民の夢や希望を支え、後押しする」持続可能な役場組織	○職員 全体の奉仕者として、誠実かつ公正に職務を遂行する ○職員数 適正な水準を保つ ○職員 組織に愛着を持ち、主体的に業務に取り組む

「第7次振興総合計画改訂版」の全文は、高森町ホームページからご覧ください。

<https://www.town.nagano-takamori.lg.jp/docs/53150.htm>



施策の目的達成のための具体的手段⇒事務事業

21の施策には、目的達成に特に寄与する、複数の「**主な事務事業**」が設定されており、これらの評価結果が、施策全体の評価に繋がる仕組みとしています。

分野	A:主体的な学びの実現				この施策が属する分野、施策の名称、施策の概要です。		
施策	1「みんなキラキラ」子どもは町の主人公						
概要	保育園・小学校での取り組みを通じて「なりたい自分を見つけることができる」「なりたい自分へ挑戦する」ための基礎的・基本的な力を身につけることを目指します。						
関係計画①	名称	高森町教育大綱	期間	R2～R11	施策の推進に 関係する行政計画等です。		
	目的	地域社会全体で教育の質を向上させ、子どもたちの健やかな成長を支援する。					
	概要	町の教育方針を示し、地域社会と連携しながら子どもたちの健全な成長を支える環境づくりを目指す。					
関係計画②	名称	子ども・子育て支援事業計画	期間	R7～R11			
	目的	子どもの健やかな育ちと子育てを社会全体で支援する環境の整備を推進する。					
	概要	子育て家庭が多様な問題に対応し、よりよい子育て環境を提供するために、地域資源を最大限に活用し、行政、学校、地域社会が一体となる支援体制を強化する。					
関係計画③	名称	高森町こども読書活動推進計画	期間	R4～R8			
	目的	子どもたちの読書習慣を育成し、豊かな心を育むこと。					
	概要	子どもたちに読書の楽しさを伝え、豊かな読書環境を整備することを目的とした取り組み。					
担当課	教育委員会事務局		関係課	産業課			
1. 施策の目的(R11年度末)						第7次振興総合計画の最終年(令和11年度)にこの施策が 目指す目的です。対象と意図で 構成されています。	
施策の対象(誰、何が)		意図(どのようになる)					
(1)	保育園児	屋外での遊びや運動を中心に様々な体験を深め、自然とふれあう中で、意欲、自立心、感性など根っこ力を育む					
(2)	小学生	「将来の夢を描く」ための基本的能力を獲得するとともに、主体性や問題解決力を身につけるようにする					
(3)	中学生	探究的な学びを通じて、自己課題を設定し、主体的に判断・解決する力を育み、「将来の夢」が描けるようにする					
2. 目標						施策を評価する目標値です。 後期期間は、目的達成のための 主な事務事業の評価結果で 施策の達成度を測ります。	
指標		単位	R7年度	R8年度			R9年度
施策実現のための主な事務事業の評価		点	100	100	100	100	100
3. 計画期間(令和7年度から11年度)の基本方針					この施策の後期期間の基本方針です。この方針に基づき、 施策に関連する事務事業において 具体的な取り組みを進めて いきます。		
計画期間の基本方針							
①	全ての児童・生徒に向けた「多様な学びの場」や「人との関わりの機会」を提供し、社会とのつながりの中で自分らしく生きる力を育みます。						
②	保小中でキャリア教育の視点を取り入れた「地域人材教育」を充実させ、社会や仕事に対する理解を広げ、進路を選択する力を育みます。						
③	子どもたちが情報技術や図書館を効果的に活用し、ICTや本を使って、論理的思考力を伸ばすとともに、協働的な学びを通じて表現力や対話力を身につけるようにします。						
④	学校と地域が一体となって協働し子どもを支えていくコミュニティ・スクールの拡充をします。						
4. 施策目的達成のための主な事務事業					この施策の目的達成に特に寄与する 主な事務事業です。		
ア	ICT教育推進事業	エ	子ども読書支援センター運営事業				
イ	「自分らしい学び」応援事業	オ	小中学校教育活動運営事業				
ウ	地域人材教育推進事業	カ	各保育園保育実施事業				

事務事業評価について

今回の会議では、具体的な取り組みである「事務事業」を評価します。

まちが取り組む事務事業はおよそ500事業ありますが、振興総合計画の10の分野から選出した13事業について、まず役場の内部評価会議にて、議論を実施しました。

今回の会議では、その中から更に選出した、5つの事務事業について議論します。



事務事業マネジメントシートの見方①

事務事業マネジメントシートは、「計画」のページと「進行管理・評価・改善」のページで構成されています。

令和7年度 事務事業マネジメントシート(計画)

作成日:令和7年2月14日

事務事業名	「自分らしい学び」応援事業		種別	主
概要	・中間教室「ばれっと」の運営 ・不登校支援ボランティア等との連携及び関係者ネットワークの拡大 ・SEL(社会性と情動の学び)研修の実施 ・信州型フリースクールに通う家庭への利用料補助			
根拠法令等				
上位施策	記号と名称		目的	
	A1	「みんなキラキラ」子どもは町の主人公	保育園児が屋外での遊びや運動を中心に様々な体験を深め、自然とふれあう中で、意欲、自立心、感性など根っこ力を育む 小学生が「将来の夢を描く」ための基本的能力を獲得するとともに、主体性や問題解決力を身につけるようにする 中学生が探究的な学びを通じ、自己課題を設定し、主体的に判断・解決する力を育み、「将来の夢」が描けるようにする	
担当課	教育委員会事務局		担当係	こども未来係

事務事業の名称や概要、上位施策などの基本情報です。

1. まちづくりプラン計画期間(令和11年度末)

1) 事務事業目的

対象(誰、何が)	意図(どのようになる)
(1) 小中学生	自分らしく学び続ける居場所を探す
(2) 保護者	児童生徒の学びを支える
(3) 地域住民	地域全体で子どもたちの学びを支える

この事務事業の目的です。

2) 令和11年度末目標(長期的な成果指標)

指標	現状と令和11年度末の値と設定根拠
A 長期欠席者数(年間30日以上)の減少	R11末:50人
B 長期欠席児童生徒が「ばれっと」を含めたフリースクールや多様な学びの場に参加している児童生徒数	自分らしく学び続ける居場所の割合 60%

振興総合計画の最終年度(令和11年度)にこの事務事業が目指す目標(成果指標)です。

2. 単年度計画(令和7年度)

1) 単年度目標(単年度の成果指標)

指標	現状と令和7年度末の値と設定根拠
a 長期欠席者数(年間30日以上)の減少	不登校・病気等 R6末63人 / R7末60人
b 長期欠席児童生徒が「ばれっと」を含めたフリースクールや多様な学びの場に参加している児童生徒数	自分らしく学び続ける居場所の割合 R6末47.6% / R7末50%
c	

この事務事業が単年度で目指す目標(成果指標)です。

2) 取り組みと4半期ごと目指す状態

取り組み(具体的手段)	4半期ごと目指す状態(スケジュール)
① 教育支援センター「ばれっと」を中心とした相談窓口の整備、受け入れ体制の充実	第1 保護者や地域住民に事業内容説明(パンフレット配布) 地域との連携による職場体験実施 例) 保育園
② フリースクールなどの民間団体との連携による学習支援	第2 第1四半期の活動の振り返り 夏休み期間中に特別な学びの機会の提供
③ ICT活用による教育機会の確保	第3 第2四半期の活動の振り返り
④ 保護者の個々の状況に応じた働きかけ	第4 第3四半期の活動の振り返り 次年度に向けた計画策定

目的や目標に近づくための具体的な取り組み(手段)と、スケジュールです。

事務事業マネジメントシートの見方②

令和 7 年度 事務事業マネジメントシート(進行管理・評価・改善)

最終更新日: 令和 8 年 6 月 5 日

1. 令和 7 年度進行管理

4 半期ごとの実績	
第1	・保護者や地域住民に事業内容の周知を行うとともに、調理実習や職場体験を実施した。 ・フリースクール利用家庭への補助を通じて、多様な学びの場の確保と支援を行った。
第2	・活動の振り返りや夏休みの学びの機会、教員向け研修のほか、子どもの自己選択を重視した活動を展開した。また「学校へ行きたくない学級づくり」の事例共有や、SEL(社会性と情動の学び)研修を実施した。
第3	・第2四半期の活動を振り返るとともに、ICT を活用した学習支援により教育機会の確保を図った。
第4	・ばれっとの保護者会を開催し、こども家庭センターや指導主事、教育相談員等と1年間を振り返り、課題等を出し合い来年度以降の活動について共有した。 ・1年間、学校訪問を通じて小中学校との情報共有を行い、継続的な支援につなげた。

四半期ごとに進行管理を行っています。

2. 令和 7 年度評価

1) R7 度の計画に掲げた取り組みの実績(実施の有無、回数、人数など 未実施も記載)	
①	ばれっとに関するパンフレットを三枚家庭数配布・支援指導主事職員を適切に配置した。また調理実習や保育園での職場体験等を行い、体制を充実させた。
②	フリースクール等に通う家庭への利用料補助を継続して実施し、経済的負担の軽減と多様な学びの場の確保を行った。
③	デジタル教材「すらら」を導入し、ICT を活用した学習支援により不登校児童生徒の教育機会の確保を図った。
④	活動の振り返りに基づき個々に働きかけた。小中学校への学校訪問で情報共有を密にし、継続支援につなげた。

当年度の計画に掲げた取り組みに対する実績です。

2) 目標の達成度

指標		令和 7 年度末の状況	
		実績	達成度
a	長期欠席者数(年間30日以上)の減少 ※病欠除く	R7 年度51人/目標60人	100%
b	長期欠席児童生徒が「ばれっと」を含めたフリースクールや多様な学びの場に参加している児童生徒数	長期欠席者の内、「ばれっと」利用24人、校内教育支援センター7人、フリースクール4人 合計35人/51人 実績68.6%/目標 50%	100%
c			
a～c 平均			100%
指標		令和7年度末実績	令和 11 年度末実績・達成度
A	長期欠席者数(年間30日以上)の減少 ※病欠除く	R7 年度51人	目標50人
B	長期欠席児童生徒が「ばれっと」を含めたフリースクールや多様な学びの場に参加している児童生徒数	R7 年度68.6%	目標60%
AB 平均			

目標(成果指標)の達成度です。目標に対して実績はどの程度であったかを表しています。

3) 取り組みの効果の確認

指標 a では、県ウエルビーイング実践校事業と連携した初期対応・予防的アプローチにより、長期欠席者を目標(60 人)を大幅に下回る 51 人(達成度 100%)に減少できた。指標 b では、「ばれっと」の運営やフリースクール利用料補助の継続により、35 人の居場所を確保し、参加率 68.6%(達成度 100%)を達成した。数値外でも「すらら」による学習機会確保や、学校訪問・保護者会、こども家庭センター等との密な情報共有が進み、家庭の安心感向上に繋がった。

目的に近づくことや目標達成に寄与したのかどうか、取り組みの効果を検証しています。

3. 計画・取り組みの検証

1) 計画とそれに基づく行動は上位施策の目的に向上に有効であったか(有効でなかった場合はその理由も記載)
「自分らしい学びの実現」を目指し、「児童生徒の居場所確保」と「体験的・主体的・探究的な学習を中心とした県事業と連携した取り組み」は、上位施策の目的に有効に機能した。今後は長期欠席の多様化や低年齢化に対応するため、さらに「ばれっと」やこども家庭センター等との連携や園小中の接続をさらに深めていく。

計画と行動は、上位施策の目的向上に有効であったかどうか、取り組みの有効性を確認しています。

2) 次年度の事務事業のあり方

■ 拡充 □ 維持 □ 縮小 □ 廃止		理由
目的		長期欠席児童生徒の多様化や低年齢化に対応し、「ばれっと」を中心とした学校・こども家庭センター等、関係機関との連携・接続機能を強化して組織的な支援体制を拡充するため。
目標		指標 A と指標 a を割合へ変更
取り組み		学校と「ばれっと」が一体となり、切れ目のない支援体制をつくるため。具体的には、学校の受入体制整備や支援会議等の実施に関する文言を追加するため。

事務事業のあり方や、改善点を記載しています。この評価に基づき、次年度の計画を改善(変更)しています。

事務事業マネジメントシートの見方③

令和 8 年度 事務事業マネジメントシート(計画)

作成日:令和 8 年 6 月 5 日

事務事業名	「自分らしい学び」応援事業		種別	主
概要	・令和5年度に開設した教育支援センター「ばれっと」の運営 ・不登校支援ボランティア等との連携及び関係者ネットワークの拡大 ・SEL(社会性と情動の学び)研修の実施(社会性や感情のコントロール、予防的指導の推進) ・信州型フリースクールに通う家庭への利用料補助による経済的負担軽減 ・商工会等を通じた、職業体験の機会			
根拠法令等	高森町教育支援センター設置要綱 高森町フリースクール利用料補助金交付要綱			
上位施策	記号と名称		目的	
	A1	「みんなキラキラ」子どもは町の主人公	保育園児が屋外での遊びや運動を中心に様々な体験を深め、自然とふれあう中で、意欲、自立心、感性など根っこを育む 小学生が「将来の夢を描く」ための基本的能力を獲得するとともに、主体性や問題解決力を身につけるようにする 中学生が探究的な学びを通じ、自己課題を設定し、主体的に判断・解決する力を育み、「将来の夢」が描けるようにする	
担当課	教育委員会事務局		担当係	こども未来係

1. まちづくりプラン計画期間(令和 11 年度末)

1) 事務事業目的

対象(誰、何が)	意図(どのようにする)
(1) 小中学生	自分の居場所でエネルギーを蓄え、在籍校への復帰や継続に向けた適切な支援を受ける。
(2) 保護者	関係機関との連携で家庭の安心を支え、子どもの学びと自立につなげる。
(3) 地域住民	幼保からのつながりを活かし、地域全体で多様な子どもたちが過ごしやすい環境を整え、子どもたちのありのままの学びを支える。

2) 令和 11 年度末目標(長期的な成果指標)

指標	現状と令和11年度末の値と設定根拠
A 長期欠席児童生徒の割合 ※病欠除く	(分子:年間 30 日以上欠席者/分母:全児童生徒数) R7 末実績:4.76% R11 目標 4.5% スタートカリキュラムの充実等による不登校の未然防止・早期対応を推進することで、R7 末実績(4.76%)から 0.26 ポイントの減少を図り、R11 末目標を 4.5%に設定。
B 長期欠席児童生徒が「ばれっと」を含めたフリースクールや多様な学びの場に参加している児童生徒数	R7 実績68.6%/目標 72% (R7 長期欠席者の内、「ばれっと」利用24人、校内教育支援センター7人、フリースクール4人)

2. 単年度計画(令和 8 年度)

1) 単年度目標(単年度の成果指標)

指標	現状と令和 8 年度末の値と設定根拠
a 長期欠席児童生徒の割合 ※病欠除く	(分子:年間 30 日以上欠席者/分母:全児童生徒数) 今年度(R7 末実績:4.76%)より増やさず維持改善する。
b 長期欠席児童生徒が「ばれっと」を含めたフリースクールや多様な学びの場に参加している児童生徒数	R7 実績68.6%/目標 69% (R7 長期欠席者の内、「ばれっと」利用24人、校内教育支援センター7人、フリースクール4人)
c	

2) 取り組みと 4 半期ごと目指す状態

取り組み(具体的手段)	4 半期ごと目指す状態(スケジュール)
① 「ばれっと」を中心とした相談窓口の整備、受け入れ体制の充実および在籍校(担任等)との密な連携強化	第1 保護者や地域住民に事業内容説明(保護者連絡アプリ Totoru 等の活用) 地域と連携した職場体験の調整開始 スタートカリキュラムの導入
② TOCO-TON 事業と連携し、スタートカリキュラムの導入や自主的・探究的活動を推進。	第2 夏休みの特別な学びの場の提供と、3校合同の職員研修・園訪問を実施する。
③ 民間団体と連携した学習支援や、ICT 活用による教育機会を確保。	第3 小中学校との合同情報共有会・ケース検討会を開催し、現状を把握する。
④ 家庭の状況に応じた支援や、こども家庭センター・学校とのスムーズな連携。 誰もが安心して生活し、学びに向かえる環境を町全体で整備。	第4 1月末に保護者会開催。1年間の総括で子どもの成長を確認し、次年度の組織的支援計画を策定する。

前年度の評価結果に基づき、変更(改善)されていることをご確認ください。

本会議の見どころ（評価のポイント）

本日の評価会議では、町の事業がより良くなるよう、委員の皆様から客観的な視点や専門的視点または町民目線から率直なご意見をいただきます。

委員の皆様には、主に以下の観点から事業を評価・議論していただきます。見学される際の参考にしてください。

1. R7年度取り組み評価（過去の検証）

- ・**目的と住民ニーズに合っていたか：**事業の内容が本来の目的に沿っていたか、また、住民の皆様の求める声（ニーズ）に応え、しっかりとした効果を出せたかを確認します。
- ・**目標の達成状況と原因の分析：**目標がどの程度達成できたかを確認します。また、うまくいった理由や、逆に課題が残った原因を自治体はどう分析しているかについて議論します。

2. 環境変化への適応（現状の認識）

- ・**柔軟に対応できているか：**人口減少や少子高齢化、デジタル化など、地域を取り巻く環境が大きく変わる中で、昔のやり方のまま（形骸化）になっていないか、今の時代に合わせて柔軟に事業を進められているかを確認します。

3. R8年度計画への橋渡し（改善の妥当性）

- ・**改善策は納得できるものか：**R7年度の振り返りが、次年度の計画にきちんと活かされているかを確認します。「なぜそのやり方に変えるのか」という理由に、しっかりとした繋がりがあるかを確認します。
- ・**実現可能な計画か：**R8年度の計画が、限られた予算や人員の中で、無理なく効果的に実行できる現実的なものかを確認します。

4. 未来への提言（期待する視点）

- ・**これからのまちづくりのために：**町の事業をさらに良くしていくため、委員の皆様からそれぞれの経験や立場を活かしたアイデアやアドバイスをいただきます。これまでのやり方や前例にとらわれず、事業の「廃止・見直し・再構築」も含めた、町の未来へつながる前向きな議論が行われます。

第7次振興総合計画 令和8年度(令和7年度実績)

有識者による評価会議日程

7月29日(水) 公開10:00～ ※1施策45分 ①説明15分、②質疑・まとめ30分

No.	分野/施策	事務事業	時間	所要時間	説明
	開会・町長あいさつ・趣旨説明・外部評価委員自己紹介		10:00	0:20	
1	A1 主体的な学びの実現/ 「みんなキラキラ」子どもは町の 主人公	イ 「自分らしい学び」応援事業	10:20	0:45	教育委員会 事務局
	説明者交代・調整時間(小休憩)		11:05	0:10	
2	C2 魅力発信と地域づくりの実現/ 「いいなを実現」理想のまちを自分 たちで	ウ 自治組織運営支援事業	11:15	0:45	総務課
	休 憩		12:00	1:10	
3	C3 魅力発信と地域づくりの実現/ 「この風景を残したい」良好な地域 のデザイン	ウ 山吹下河原土地利用計画 策定事業	13:10	0:45	建設課
	説明者交代・調整時間(小休憩)		13:55	0:10	
4	D1 健康の実現/ 「こころもからだも いつまでも健康に」健康宣言	ア	14:05	0:45	健康福祉課
	F1 福祉の実現/ 「人と人との支え合い」福祉の力	カ			
	説明者交代・調整時間(小休憩)		14:50	0:10	
5	H1 持続可能な環境の実現/ 「今より優しい生活」未来へつなぐ 自然環境	ア 地球温暖化防止推進事業	15:00	0:45	環境水道課
	町長・林先生総括		15:45	0:15	

終 了

16:00